

国道34号大村諫早拡幅完成イメージ(鈴田峠付近)



将来を見据えた都市像

「都市づくり」

本市は、道路網や上下水道施設などの都市基盤が整う良好な居住環境によって、県内でも有数の住みやすい都市として発展してきました。また、現在も国道34号の拡幅など、大規模なプロジェクトが進行しており、さらなる都市機能の充実が図られています。

さらに、空港、高速道路に加え、令和4年9月に開業した西九州新幹線など、充実した高速交通体系を活用することによるにぎわいの創出や交流機能の向上など大きな可能性も秘めています。

こうした市の発展や成長の一方で、将来的な人口減少や高齢化を踏まえ、これまでのように市街地を拡大するのではなく、既存の基盤施設を有効活用しながら都市機能を集約し、公共交通の利便性を高める「コンパクトなまちづくり」や頻発・激甚化する災害に対する「安全で安心なまちづくり」が求められています。

そこで、令和3年度に「大村市都市計画マスタープラン」および「大村市立地適



一般県道257号・大村外環状線(サンシャインロード)



国道34号久原2丁目交差点付近

大村の都市計画

都市計画道路

令和5年4月1日現在[単位km]

路線数	計画延長	改良済延長	未改良延長	改良率	
18	46.76	36.39	10.37	77.8%	
主要幹線道路	3	22.44	16.24	6.20	72.4%
都市幹線道路	10	16.87	16.07	0.80	95.3%
補助幹線道路	5	7.45	4.08	3.37	54.8%

都市計画公園

令和5年3月31日現在

	住区基幹公園			都市基幹公園		特殊公園	合計
	街区	近隣	地区	総合	運動		
箇所数	38	2	1	1	1	3	46
面積(ha)	6.26	1.60	7.00	21.40	22.10	16.70	75.06

公共下水道

令和5年3月31日現在

計画区域面積	2,933ha
処理区域面積	2,372ha
計画区域人口(A)	95,642人
処理区域人口(B)	88,603人
普及率(B/A)	92.6%

※計画区域面積および計画区域人口には、公共下水道に統合する農業集落排水区域を含む。

用途地域

令和5年3月31日現在

	面積(ha)	割合(%)
大村都市計画区域	5,997	100.0
用途地域	2,344	39.1
住居系	1,378	23.0
第1種低層住居専用地域	365	6.1
第1種中高層住居専用地域	119	2.0
第2種中高層住居専用地域	133	2.2
第1種住居地域	714	11.9
準住居地域	47	0.8
商業系	203	3.4
近隣商業地域	70	1.2
商業地域	133	2.2
工業系	763	12.7
準工業地域	552	9.2
工業地域	147	2.4
工業専用地域	64	1.1
無指定地域	3,653	60.9

正化計画」を見直し「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」「安全・安心」のまちづくりを推進することにより、持続可能な都市構造の実現に向けた取り組みを進めています。

【景観づくり】

本市は、緑の多良山系から丘陵地と平坦な市街地まで緩やかにつながり、穏やかな大村湾に面するなど、海、山、川と豊かな自然に恵まれた風光明媚な景観が市民にうるおいとやすらぎを与えてくれています。

こうした良好な景観を守り、育て、創るため、令和4年度に「大村市景観計画」を改訂し「市民をつみ込む」のびのびひろびろとした海と山が連続する大村の景観づくりの理念のもと、特性を活かした景観形成に取り組んでいます。

特に、歴史的な景観を多く残す上小路周辺地区を「景観形成地区」に指定し、住民とともに歴史的な街並みを維持、保全し、景観の特性を活かした街並み環境整備を推進しています。

全ての景観の調和を大切にし、周知・啓発活動や景観形成の活動支援などを総合的かつ継続的に進め、市民・事業者・行政が一丸となった景観づくりに取り組んでいます。



景観形成地区(上小路周辺地区)



森園公園